

展示作品の紹介



作家名 | 高尾心一

作品タイトル | 無題

自身が生活される施設にて長年にわたり、同じモチーフを描き続けている。女性の肖像と思われる絵は頭部が木霊し増殖していくような印象を受ける。制作が進むと共に背景と輪郭が黒く塗り潰されていき最終的に真っ黒になることもある。

ご本人は話すことができない為、誰を描いているのかは分からないが、絵描きであった母親のそばで幼いころから絵を描いていたこともあり、母親のイメージが投影されているのかもしれない。



作家名 | HIRO

作品タイトル | 無題

モチーフは花、ゲームのキャラクター、風景など多岐にわたる。彼は一度見たものはしっかり記憶に残し、その記憶力の高さから想像と記憶が合わさった独自の世界観を築き上げる。

画面いっぱい余白なく詰め込まれたオブジェクトは、本人曰く「描きながら考え、描き進めている」ため、完成するまでは誰も全体図が予測できない。思いもよらないものを描き加えていくので、制作中の様子も見応えのある作家である。

画材は顔彩、油性マーカーペン、ボールペン、修正テープなど様々。新しい画材を使用する際は、その特性や使い心地を吟味・習得するように、じっくりと集中して使用する一面も。



作家名 | M.F

作品タイトル (全6点) | ランチュウ、ジャイアントパンダ、セキセイインコ、テントウムシ、カクレクマノミ、シバイヌ

動物、菓子、飲食店などをモチーフに制作。一枚の絵と向き合う時間が長く、細部まで描きこまれている。描き方はまず、ボールペンでアウトラインを描くことから始まる。その線は繊細で、細かく揺らぐような輪郭は対象物を生き生きとみせる。また、その観察眼は、写真では不明瞭な部分までも描き出す。彩色は油性マーカーペンで少しずつ丁寧に塗りつぶすため、インクの重なりが模様のようにも見えるのが持ち味。昨今は架空の飲食店やスイーツショップの看板・キャラクターを創造することに没頭している。



テ
ン
ト
ウ
ム
シ



イ
ン
コ

セ
キ
セイ
イ
ン
コ